案件概要表

Ⅰ．提案事業の概要	
1. 対象国名	ラオス
2. 案件名	子どもたちが観察・記録・思考・伝達により「科学する力」を育むプロジェクト
3. 事業の背景と必要性	ラオスでは、フランス植民地時代にラオス語軽視のフランス式教育が行われ、多くの一般庶民に高等教育の機会は与えられなかった。2000年以降教育政策においてラオスEducation for allが掲げられ、就学率は大幅に改善されたが、質の高い教育という面では程遠く、特に理数科評価は東南アジア6カ国中、最下位である。理科教育は暗記科目であり、実験や観察の授業はほぼ行われておらず、自分たちで考える訓練がなされていない。教室の外で、子どもたちが自ら自然を観察し、記録し、考えることで、科学の面白さを体感することが大切である。 ラオスの豊かな自然を次世代に引き継ぎ、その豊かな自然とともに発展していくために、ラオスの子どもたちが自然そのものから学び、自然科学に興味を持ち「科学する力」育むことが重要である。
4. プロジェクト目標	子どもたちが、楽しく身の回りの自然に興味を持ち、自ら観察・記録・思考・伝達することにより「科学する力」科学的思考が養われる課外教育モデルが構築される
5. 対象地域	ビエンチャン特別市ナーサイトン郡ナーヤーン村
6. 受益者層（ターゲットグループ）	ナーヤーン村小学生4・5学年 51人、ナーサイトン郡小学校教員 12人、ナーサイトン郡小学生 300人、ビエンチャン市の教育関係者 10人
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	成果1：ワークショップを通し、教師・生徒共に、地域の自然を体感的に深く理解する態勢ができる 成果 2：子どもたち自身が地域の自然を観察し、観察結果をまとめ発表することができるようになる（自分の関心のある話題を見つけ、観察する） 成果3：小学校教員とC/Pが、実験、観察の重要性と意義を理解し、学習指導案にそった課外活動手法について理解できるようになる 成果 4：首都ビエンチャン教育スポーツ局関係者とナーサイトン郡近隣小学校の教員に実験、観察の指導の手法と授業の組み立て方が共有される 活動1：ワークショップ 1-1a）キックオフワークショップを実施し、事業関係者で、本プロジェクトの目的、目標、スケジュールを共有し、課外活動で行う観察を体験する。 1-1b）子どもたち自身で観察できるように、課外活動の準備をする（ラオス語の既存資料・教材発掘、ラオス語資料づくり、教材と実験器具の現地調達） 活動2：課外活動実施にかかる活動 2-1）昆虫（蝶または蚊）の飼育、観察、記録を希望する子ども達があつまることのできる場所をつくる。 2-2） 子どもたちが成果を発表できる場を、小学校、村、近隣の地域

	と協力して作る。 2-3）ナーヤーン村小学校の 4～5 年生を対象に、チームがじゃん沖縄およびラオス、科学コミュニケーターが、昆虫（主に蝶、蚊）の基礎知識を伝え、一緒に飼育、観察（フィールドワーク含）、実験を行い、記録をとる。（小学校教諭が参加する。） 2-4）子どもたちの記録の整理と分析を一緒に行う。 活動 3: 発表（伝える）にかかる活動 3-1）発表（伝える）方法を一緒に考える。 3-2）地域の子どもたち、大人たち、事業関係者の前で、実践活動結果を発表する。 活動 4：地域に向けた活動 4-1）Handbook 作成の準備として、また、観察の教材としてナーヤーン村の自然のパンフレットを作成・配布する 4-2）学習指導に関する、ワークショップを関係者を交えて実施する。 活動 5：まとめ 5-1）本事業の成果報告書を作成する。
8. 実施期間	2024 年 2 月～2026 年 2 月（2 年間）
9. 事業費概算額	10,000,000 円
10. 現地カウンターパート	ビエンチャン特別市教育スポーツ局
Ⅱ．実施団体の概要	
1. 団体名	一般社団法人チームがじゃん
2. 活動内容	シチズンサイエンス実践による安心安全な地域づくり